



平成 23 年 8 月 12 日

各 位

会社名 株式会社 京都ホテル  
代表者名 代表取締役社長 平岩 孝一郎  
(コード番号 9723 大証第二部)  
問合せ先 執行役員経理部長 柳瀬 光義  
(TEL 075-211-5111)

**第 2 四半期累計期間における業績予想値と実績値との差異  
および通期業績予想の修正に関するお知らせ**

平成 23 年 5 月 13 日に公表しました、平成 23 年 12 月期第 2 四半期累計期間(平成 23 年 1 月 1 日～平成 23 年 6 月 30 日)の業績予想値と実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、最近の業績の動向を踏まえ、平成 23 年 2 月 14 日に公表しました平成 23 年 12 月期(平成 23 年 1 月 1 日～平成 23 年 12 月 31 日)の通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1.平成 23 年 12 月期 第 2 四半期累計期間業績予想値と実績値との差異

(1) 第 2 四半期連結累計期間(平成 23 年 1 月 1 日～平成 23 年 6 月 30 日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	4,450	22	△218	△206	△20円03銭
今回実績値(B)	4,567	114	△128	△144	△14円08銭
増減額(B-A)	117	92	90	62	—
増減率(%)	2.6	418.2	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年12月期第2四半期)	4,813	269	34	13	1円28銭

(2) 第 2 四半期個別累計期間(平成 23 年 1 月 1 日～平成 23 年 6 月 30 日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	4,450	△258	△218	△206	20円03銭
今回実績値(B)	4,567	△148	△127	△143	△13円96銭
増減額(B-A)	117	110	91	63	—
増減率(%)	2.6	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年12月期第2四半期)	4,813	4	34	13	1円29銭

### (3) 修正の理由

#### (連結、個別)

売上高に関しましては、東日本大震災の影響により、宿泊部門で国内外団体旅行客を中心にキャンセルが相次いだほか、宴会部門で法人宴会の自粛ムードが広がりましたが、個人宿泊客が徐々に回復してきたこと、一部レストラン売上げの堅調さに支えられ、当初の予想を上回りました。利益面におきましても、販売費及び一般管理費の削減に努めた結果、営業利益、経常利益、四半期純利益とも前回予想と比べ増加いたしました。

もっとも、かかる上方修正につきましては5月時点で上期業績を相当慎重に見込んでいたことによる面が大きく、売上・収益環境としては前年実績を下回る厳しい状況がなお続くものと見ております。

## 2.平成 23 年 12 月期 通期業績予想の修正

### (1) 平成 23 年 12 月期通期連結 (平成 23 年 1 月 1 日～平成 23 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	10,324	759	284	165	16 円 11 銭
今回修正予想 (B)	9,723	482	46	△50	△4 円 81 銭
増減額 (B－A)	△601	△277	△238	△215	－
増減率 (%)	△5.8	△36.5	△83.8	－	－
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 12 月期)	9,912	648	190	91	8 円 91 銭

### (2) 平成 23 年 12 月期通期個別 (平成 23 年 1 月 1 日～平成 23 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	10,324	107	275	157	15 円 34 銭
今回修正予想 (B)	9,723	219	47	△48	△4 円 63 銭
増減額 (B－A)	△601	112	△228	△201	－
増減率 (%)	△5.8	104.7	△82.9	－	－
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 12 月期)	9,912	△3	189	91	8 円 90 銭

### (3) 修正の理由

#### (連結、個別)

平成 23 年 12 月期の通期業績予想につきましては、東日本大震災の影響が不透明であり、第 1 四半期時点では業績に及ぼす影響を見積もることが困難な状況にありました。その後、震災直後のような大幅な下押し圧力はみられなくなっていることもあり、上期実績に最近の業績動向も踏まえ通期の業績予想を修正することといたします。今のところ通期でみましても外人宿泊客が依然低水準にとどまるとみられるほか、ここにきて食材価格上昇等のマイナス要因も新たに見込まれることから、結局、前期実績を若干下回る業績予想をしております。

なお、個別の営業利益が増加している要因は、連結子会社の有限会社おいけプロパティを6月に吸収合併したことにより、同社に支払っていた家賃の計上がなくなったことによるものです。

(注) 上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって、予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上